

グッチョ

Guccho

“何かをし合う”意味の筑後弁！

〇〇し合えるまちへ。「支えぐっちょ」「つながりぐっちょ」な人や取り組みを紹介する地域福祉マガジン

vol. 15

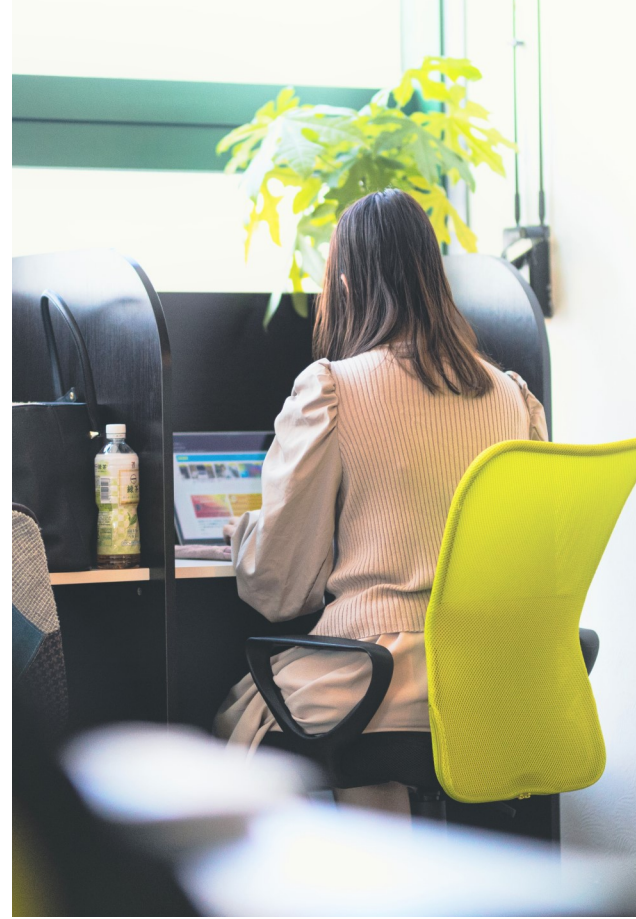
自分と向き合う。その姿を赤裸々に



WEBライター **piasu** (ピラス) Web writer “piasu”

陽光が差し込むおしゃれなオフィスに立つ女性。後ろ姿での登場には訳があります。抱えてきた生きづらさと向き合い、文章で表現する彼女の思いに迫ると、同じような状況の人だけでなく、社会にとっても大切なものがありました。

職場で執筆作業中のピアスさん。記事【発達障害のある私。～苦しい思春期～】で、小学2～4年生が「私の唯一の黄金時代」と表現。その後、周りの人との成長のスピードの違いが顕著に。指示を理解するのも苦手なことが判明し、アルバイトでも怒られっぱなしだったそうです



文章以外「壊滅的」と診断

とあるWEB記事「障がいのある私。顔出しするか迷う」には、精神障害のあるライターが取材を受けるにあたっての葛藤が描かれています。書いたのはWEBライター・ピアスさん。障害者の就労継続支援A型事業所でWEBメディア「AKARI」と、記事配信サイト「note」で執筆しています。

ピアスさんがグッチョの取材で「顔出し」を迷った要因は精神障害。発達障害と双極性障害があることでした。障害＝悪いこと、ではないから顔を隠したくないという思いと、家族や将来への影響が怖いという二つの気持ちの間で揺れていました。

ピアスさんは中学時代に不登校になり、高

校で症状が悪化、一時は引きこもり状態になりました。2018年に同社に入り、デザイン部門に配属。2020年に現在のライター部門に異動しました。ライターの道を選ぶきっかけになったのは、心理検査でした。本人の記事【「文章を書く」夢を追いかける発達障害の私】に次のような一節があります。

—ひとつの分野を除いて、他の全ての分野、主に数字、図形などの能力が壊滅的に低かったのだ。そして、秀でているたったひとつの分野が、「文章を書くこと」だったのだ。

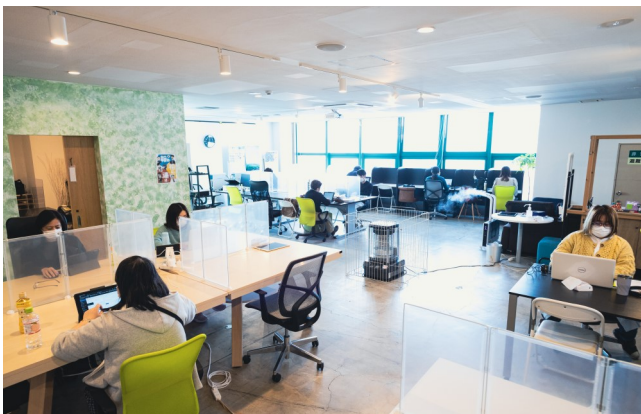
あとで自分でそこに書いてあった点数をネットで調べたら、「人並み」ということで、それもガククリ来た覚えがある。

「苦しみ抱えた人へ」に変化

劣等感の塊だったピアスさんを救ったのが執筆活動でした。「私にとって文章はとても大切なもの。書くことで障害と向き合い、一つ一つ荷物を下ろす感覚でした」。程よい距離感で人との関係が持てたことも大きかったそう。「温かいコメントで応援してくれる人がいたり、当事者から助言がきたり。心がつながっている感覚でした」。

執筆を通して自分と向き合うにつれ、記事の方向性が徐々に変わっていききました。

—「『辛い』『苦しい』『消えてしまいたい』。そんなことを思っている人々へ、少しでも届くように、今度は自分の利益のために



TANOSHIKA CREATIVEのオフィス。ライター以外にもWEBページの設計やデザインをする人もいます



AKARIのTOPページ。生きづらさや働きづらさを抱えている人の声を届けて、心の暗闇を照らすメディアを目指しています



(上) パソコン画面を見せながら取材に応じるピアスさん。どうして苦しい過去を思い出してまで執筆を続けられるのかという質問に、「一度底まで落ちたから」。目標の一般就労に向けて、記事を書き続けています。

(左) 記事【障害年金で得たもの】から。「MacBook Proを買ってから、2年が経った。自分のお金で買える訳がない。障害年金を使わせてもらって、購入した。30万の札束を店員さんに渡した事。MacBook Proを開くたびに、私はあの札束を思い出す。私は、いずれ、あの大金を、世間に返したい。そのために、私は今日もそのMacBook Proの前で必死に頑張っている」

はなく、相手のためだけの文章を書きたい」
ピアスさんは、日々の出来事に加え、自身の症状の変化やその時の気持ち、対処法などを書き続けています。コメント欄には同じような障害や生きづらさを抱える人から、共感や感謝の言葉が寄せられています。

精神障害のありのままに触れる

記事の中でピアスさんは、時に「赤裸々に」内面を吐露します。日常や葛藤を包み隠さず書いた文章から、精神障害の特性や抱えきれない感情・衝動など、特有の生きづらさを垣間見ることができます。

「外の世界をひとことで表すのなら『こわい』。何をされるかわからない場所」という感じでしょうか。親以外の人から暴力をふるわれたことがあって、その頃からこわい場所だと思ってしまうようになりました。一歩外の世界に出てみると、レジ打ちのお兄さんとか、ケータインショップのお姉さんとかのちよつとした仕草でさえ「今のなんだったんだ?」「攻撃されるのでは?」「こわい」という思いでいっぱいになってしまいます

記事【障がい者である私の贅沢】では、グループホームで暮らす彼女の「幸せ」に対する考えを書いています。そこで、障害年金受給への葛藤が垣間見えます。

「福祉の力を使って住んでいる。福祉の力＝皆さんのお金が使われている。この幸せが、



noteの個人アカウントで発信し始めたのはライターチームのリーダーの助言。「もっと私らしい記事を書いてみてと言ってくれて。『いいね』がつかず落ち込んだこともあります」

誰かの汗水流してやっと生まれたお金…税金から成り立っている。『幸せ』なんて思ったらバチが当たる、くらいに思ってしまう

自分自身を見つめ、物事を整理し、あまり表に出ない「人の内面」を社会と共有。ピアスさんの執筆活動は、同じような状況の人だけでなく、精神障害のことを知らない人にとっても大切な機会になっています。

取材時、顔出しするかを悩むピアスさんに「無理だけはしないで」と伝えました。しかし今は、「悩む必要はないと思います」と伝えたいと思っています。彼女の書く文章には、顔出し以上のリアリティで、ありのままのピアスさんがいるから。(担当・フトシ)



めちゃくちゃ記事更新が早い。見習わねば

\地域福祉マガジン/
グッチョ
Guccho

久留米市役所 地域福祉課
〒830-8520
久留米市城南町15-3
☎0942-30-9175
Fax0942-30-9752